英真学園高等学校
校長　吉田　進彦

令和４年度英真学園高等学校　学校評価

１．めざす学校像

建学の精神
誠実・勤勉を心がけ，豊かな教養とより深い人間性の育成を目指す
＊　個性や違いを認めて支えあう学園
＊　他人を思いやる心豊かな学園
＊　毎日を肯定的に受け止め，創造力豊かな学園

２．中期的目標

アジアで活躍する人材の育成
アジアの人々とともに豊かで平和な未来を築く創り手の育成をめざし，生徒とともに教職員も切磋琢磨する学校

１．アジア諸国に興味・関心を持つ
多様な文化・言語に触れ，グローバルな視点で物事を捉える力を養う

２．情報発信能力を高め，協働的問題解決をはかる力を養う
自らの意見を表現・発信する力，多様な意見を聴き理解する力を養う

３．アジアの中の日本
公共心や規範意識，人権への鋭い感受性と他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力を養う

４．主体的・対話的で深い学びの探究
学びへの興味と努力し続ける意志を喚起し，その指導方法を不断に見直し改善する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析［令和４年１月実施分］	学校評価委員会からの意見
学校評価（自己評価） 教職員　調査対象　専任教員・専任事務職員 調査方法　４段階評価 Ａ：よくあてはまる　　Ｂ：ややあてはまる Ｃ：あまりあてはまらない　　Ｄ：まったくあてはまらない **調査項目の分析** 中期的目標にアジアで活躍する人材を育成するための取り組みを一つの柱にして先生方に取り組んでいただいてから２年目となる。目指す学校像および中期的目標に，年度当初の方針会議において校長や各部から提議された重点的な取り組み（重点目標），さらに『観点別評価について』と『教職員に対する人権研修について』の２項目を加えて３４項目において学校評価（自己評価）を行った。 ３４項目中３１項目が肯定的（Ａ，Ｂをあわせたもの）な評価結果となった。特に，『他人を思いやる指導』，『教室の美化を遂行』，『教員向けの人権研修について，積極的に取り組み，理解を深める』『清掃・校内美化・施設・設備を大切にする』『考査業務における事故防止策の徹底』の５項目については９０％を超える肯定的な自己評価を得た。また，今年度追加した２項目については，『観点別評価について』は７８％，『人権研修について』は９１％の肯定的な自己評価を得た。 今年度は研究授業に積極的に取り組み，『生徒が達成感を持つことができる授業』，『生徒が積極的に意見を出し合えるような授業』を目指し，８０％を超える肯定的な自己評価を得た。また，生徒アンケートでは『各授業やＨＲにおいて発言（発表）する機会があったか』という設問に対して６０％の生徒が『発言できた』と答えている。 一方，『アジア諸国について情報収集ができたか』，『アジアの書籍の利用の発信ができたか』の項目については，４０％程度の肯定的な自己評価しか得られなかった。	・大部分の設問について肯定的評価（①，②）であることは，先生方の教育に対する真摯な姿勢を示すものとして高く評価したいと思います。 ・重点目標として今回新設の設問１８（観点別評価について）は，良い視点だと思います。 ・多様な意見を聞き理解する力（設問８），自ら意見を言い発信する力（設問９）を養うことは，これから社会に巣立っていく生徒たちにとって極めて重要なので，肯定的評価がより増えることを期待します。 ・本校財務に関する意識（設問３０）は，教職員の皆さん全員が正しく認識しておくべき課題です。財務問題を考えるのと同時に，どのような学校を目指すのか，教職員，理事全員で考えなければならないと思います。

学校関係者評価

外部代表として外部理事・幹事，同窓会役員およびＰＴＡ役員の方から，学校の状況について意見をいただいた。

・「本当に楽しい３年間だった」という子供の言葉が全てだと思う。コロナに振り回された３年間だったが，学校行事，授業と色々と気をつかいながらも挑戦し続ける学校・先生方の姿は子供達に良い勉強になったと本当に思う。ありがとうございました。

・学校を訪れたとき，生徒達の対応がとてもさわやかで礼儀正しく，気持ちがいいです。

・さまざまな問題が多様化している中で，多感な年頃の子供達を指導，教育に頑張っておられる様子が良くわかります。

・教室美化・公共の場においてマナー・ルールを守り，他の人を思いやる心を育てる教育を，これからもお願い致します。

・入学後の成長進展・学校への貢献度・目標達成度をみて，奨学金支援をすることも提案したい。

・昨今の少子化により，何らかの特色を打ち出して行かねば本校の定員割れが続き，定員確保は困難な状況が続くと予想され，学校経営の基盤となる財務体質，あるいは学園の存立自体に重大な障害となります。

３．本年度取り組み内容および自己評価

中期的目　標	今年度の重点目標	具体的な取組計画･内容	評価指標	達成状況と自己評価
１アジア諸国に興味・関心を持つ	多様な文化･言語に触れる (1) 各クラス・各教科において，アジア諸国の文化や言語に興味関心を待たせ，意識させる (2) 図書室では，教員や生徒がいつでも閲覧できるようにアジア諸国の書籍を揃えておく	(1) 教員は，自らもアジア諸国に興味を持ち，アジア諸国に関する知識を授業やHR活動で生徒に情報発信，、生徒に興味関心を持たせる (2) 昨年度設置した「アジア諸国」のコーナーのさらなる充実 ■生徒アンケートを実施する	(1) どれだけ情報収集できたか どれだけ生徒に情報発信できたか (2) アジア諸国に関する書籍の貸し出し数の増加 ■日々の学校生活において，アジアを意識できたか	７９%の教員が，生徒に対して，興味関心を持たせる情報発信ができた。 多くの生徒から韓国系の書籍のリクエストあり，令和４年度は韓国系の書籍の充実を図った。その結果，貸し出し数の割合が１０ポイント増加した。今後他国の書籍の充実も図り，更なる増加を目指す。 生徒アンケートを実施した結果，より意識できた生徒は昨年より１０ポイント程度増加した。

２情報発信能力を高め，協働的問題解決を図る力を養う	生徒達自ら課題を設定し，独自の考えを見つけ出し，第三者にその成果を伝える力を養う (1)多様な意見を聴き理解する力を養う （インプット） (2)自らの意見を表現・発信する力を養う （アウトプット）	(1)教員は，ＨＲ活動・行事・授業において，生徒達自らが考え，意見を出し合い，まとめる機会を設ける (2)　教員は，ＨＲ活動・行事・授業において，生徒がプレゼンテーションをする機会を設ける ■生徒アンケートを実施する	(1) 生徒が積極的に意見を出し合えるような学習環境を作れたか (2)生徒が積極的にプレゼンテーションする学習環境を作れたか ■他人の意見を聴き理解できたか　自分の意見を発信できたか	８５%の教員が，より生徒の意見等を出し合える環境作りができていると答え，７５%の教員が、学習環境を作ることができたと答えた。ともに昨年度と同程度であった。生徒アンケートを実施した結果，より積極的に発言ができたと感じている生徒は，昨年度と同様の２０%程度であった。

３アジアの中の日本	日本が世界から評価を受けている,「時間厳守」や「美化意識」,「災害時における物資授受等の規範意識」「思いやりの精神」について考えさせる １．公共心や規範意識を高める (1)欠席・遅刻をなくす (2)美化活動の徹底 (3)マナーを守る ２．人権への鋭い感受性と他者理解を尊重する (1)外部講師を招いての人権 HR の実施 (2)弱者の立場を理解し,助け合いの精神を養う	(1)毎月１回,「無遅刻週間」を設ける。生徒会のあいさつ運動の実施 (2)生徒会の美化委員会と協力して美化点検を行う (3)　教員による登下校指導 生徒会によるあいさつ運動 通学路でのマナー向上のため，地域の方との連携 被災地に対する支援活動 ２．人権意識の育成と人権 HR 活動を通じて他者共生を図る (1)各学年によりテーマを決めて，外部講師を招いての講演を聴く (2)視覚障害者の講演を聴く 車いす体験を実施	(1)欠席・遅刻数において,前年比減を目指す (2) 机の整頓,ゴミ箱にゴミが残っていないか,黒板まわり等,チェック項目を設ける (3)登下校時，電車内でのマナーを守れたか (1)講演のあと，フィードバックにより理解したことを定着させることができたか (2)体験のあと，フィーバックにより理解したことを定着させることができたか	６６%の教員が，欠席や遅刻を減らす指導ができたと答えた。昨年度同様,コロナの影響で欠席，遅刻を減らす指導を徹底できなかったと感じる。 ９０%を超える教員が，教室の美化の徹底ができた。 ８０%を超える教員が，ルール，マナーを守らせる指導ができた。 講演後の振り返りで，理解したことを定着させる指導ができたと答えた教員は７６%であった。また，生徒アンケートでも９０%を超える生徒が，しっかり理解できたと答えた。

４主体的・対話的で深い学びの探究	学びへの興味と努力をし続ける意志を養う 各部・各学年等においてコミュニケーションを図り，組織的な指導力を高め，日々の学習活動において，『できた』達成感を共有・蓄積して、生徒と共に探究していく 観点別評価について，新たな評価指標を確立する 生徒が抱える様々な問題を理解し，援助していくために人権教育に積極的に取り組む	各教科で，ipad を活用した新たな授業の研究を行い，教科会議において授業研究を行う 生徒との日々の学習活動において『できた』達成感を共有・蓄積して，その後のクラス運営や学校作りに役立てる 各教科の評価の方法，考え方を再検討する 学習障害，LGBTQ 等の教員向けの研修を積極的に行い，さらに理解を深める。	研究授業，教科での研修会議の回数 いろいろな角度から生徒を評価し，単位認定をおこなう 教員向けの研修の回数 人権教育推進委員会からの情報発信	今年度は，ほぼ全教員が研究授業を実施した。１年間で，研究授業４５時間，研究授業を見学しレポートを提出した教員はのべ３４９名であった。 生徒アンケートで，９０％の生徒が授業等で ipad を活用できたと答えた。 ８５％の教員が，生徒が「できた」と達成感を持たせることができた。 ７８％の教員が，観点別評価について新たな評価指標を確立し，単位認定を行うことができた。 今年度は，３回の人権に関する職員研修を実施し，人権教育に積極的に取り組んだ。

今後の目標

◆生徒が充実した学校生活を送れるように，学習活動，生徒指導，特活指導，人権教育，支援教育，キャリア教育の充実を図り，『入学生＝卒業生』，さらに全員の進路決定を目指し，教育活動を行っていく

◆生徒に建学の精神を身につけさせる教育の実践を行い，アジアで活躍できる人材の育成を目指す

◆規範意識を高め，人権を重んじる生徒の育成に取り組み，いじめのない楽しい学校生活が送れる環境づくりを進めていく

◆令和５年度は ipad 導入２年目となる。タブレット委員会と各教科が連携し，授業への活用等に積極的に取り組み，『わかる授業』『生徒が自ら学びたいと思う授業』の実現を目指す

◆これまでも様々な問題を抱える生徒に対して支援を行ってきたが，その支援体制をさらに充実させるために，令和５年度より『支援委員会』を設置する

◆人権に関する教員研修を継続し，生徒が抱えている問題等を理解し，安心して学校生活を送れるように援助していく

◆令和５年度より校務システム『BLEND』を導入し，日々の出欠・成績の管理，生徒・保護者との連絡ツール等に活用する